

### かいよう 潰瘍性大腸炎

#### 〈症状〉

基本的に大腸のみに炎症が生じます。腹痛・下痢・粘血便をはじめ、場合によっては発熱や貧血などを引き起こします。

#### 〈主な治療法〉

炎症を抑える薬剤や免疫調整薬などによる薬物療法が中心ですが、薬剤での治療が難しい場合は、血球成分除去療法を行うこともあります。

#### 〈手術が必要な場合〉

「内科治療に抵抗を示し難治性である」「劇症で生命的な危険性がある」「がんを合併している」などの場合は、手術を行います。手術は、患者さんの QOL を考慮し、兵庫医科大学病院で発展した「大腸全摘・直腸粘膜切除、J 型回腸囊<sup>のう</sup>肛門吻合術」という「肛門機能を温存できる手術」を当院では第一に選択しています。

### クローン病

#### 〈症状〉

口から肛門までの消化管のあらゆる部分で炎症が起こります。特に小腸の終末部分が多発部位。腸管が狭くなると腸閉塞を生じて腹痛が出たり、瘻孔を形成(腸管—腸管、腸管—皮膚、腸管—膀胱などがくっついて壁がなくなる状態)すると栄養障害や皮膚障害を生じたりします。また、肛門部に複雑な痔瘻や膿瘍を形成することもあります。

#### 〈主な治療法〉

内科的に免疫を抑えたり、調節したりする薬物療法が中心となりますが、日本では食事、特に脂肪酸に注目し成分栄養剤による栄養療法が以前から行われています。

#### 〈手術が必要な場合〉

狭窄が進行して腸閉塞を生じている場合や、瘻孔や膿瘍<sup>のうよう</sup>(膿がたまっている状態)が治癒しない場合は手術が必要です。外科的に根治させることは困難なため、最小限の腸管切除や狭窄を生じた病変を広げる手術(狭窄形成術)を選択しています。また、肛門周囲に膿瘍を形成したり、複雑な瘻孔を生じたりする場合は手術が必要です。